山本「五輪で力出し切る」

自転車文化普及に意欲

マウンテンバイク日本代表 抱負語る

北京五輪の自転車マウンテンバイク（競技8月22、23日）日本代表の幕別町出身、山本幸平（22）＝チーム・ブリヂストン・アンカー＝国際アウトドア専門学校、帯農高出＝が、全日本マウンテンバイク選手権大会（19―21日）の開かれた秋田県仙北市で十勝毎日新聞社のインタビューに応じた。「自分の力を出し切ってゴールラインを通過する」と完全燃焼を誓い、「十勝に自転車文化を広めたい」と愛する故郷と競技への思いも熱く語った。（岩谷真宏）

全日本選手権で圧勝し、ガッツポーズの山本幸平（大賀静子カメラマン撮影）

―代表決定の反響は。

祝福がたくさん届き、五輪はすごい大会だと改めて感じている。声を掛けられるのはうれしく、喜んでくれる人がいるから頑張れる、1人ではないというのを感じる。

―北京五輪を意識したのは。

出たいとは思っていたが、まだプロ2年目。次のロンドン五輪で上位をと考えていた。4年早く出られるようになり、ありがたい。五輪ももちろんだが、世界のトップにという、一番大きな目標がある。そのためにただひたすら練習して、気付いたら、ここにいたという感じだ。

―マウンテンバイク選手として見た十勝は。

シーズン中の多くをフランスで過ごしているが、行くと十勝に帰った気持ちになる。雰囲気が似ていて、自転車文化を十勝に広められればと思う。日本で一番良い環境だと言える。大自然過ぎてMTBのコースが整備されていないのは残念だけれども、乗る人をどんどん増やしたい。自転車は環境にも健康にも良いことだらけでもある。

―十勝の後輩たちへのメッセージを。

何でもよい、目標を持ってそれを達成するということを体験してほしい。目標を達成するには、何かを犠牲にしなければならない。自分も友達と遊びたいという気持ちを犠牲にして目標に向かった。そういう真剣に取り組んだ後の、本当の達成感を感じてほしい。

―五輪のレースの抱負を。

全力を出し切ったと胸を張れる疲労度でゴールする。そうでなければ、行っても意味がない。欧州の選手よりは気候など環境に慣れていると思うので、うまく利用し、おもしろい走りをしたい。高速コースと言われていて、早い展開になると思うので残り1カ月、ペースに対応できるトレーニングをしたい。大好きで誇りに思っている十勝の皆さんには、応援してもらえればと思います。

全日本選手権

貫録の独走優勝

兄和弘は惜しくも4位

エリートクラス優勝に笑顔いっぱいの山本幸平（大賀静子カメラマン撮影）

【秋田県仙北市】自転車の全日本マウンテンバイク選手権大会（日本自転車競技連盟主催）のクロスカントリー競技が21日、秋田県仙北市ざわ湖スキー場で行われ、同競技の北京五輪代表、山本幸平（22）＝チームブリヂストン・アンカー＝国際アウトドア専門学校、帯農高出。幕別町出身＝が男子シニア・エリートに出場、1時間57分9秒で優勝、代表選手の底力を見せつけた。兄、和弘（25）＝キャノンデール・YOUCAN＝北海道ハイテクノロジー専門学校、帯三条高出＝は3位争いを繰り広げたが、2時間2分47秒で惜しくも4位だった。

強い日差しが照りつけ、会場内の温度計が30度を超える厳しい条件となった。昨年と同会場だがコース設計を大幅に変更。「リズムをつくりづらく消耗戦」（山本和）を強いる6・1キロのコース（シニア・エリートは6周）に、54選手が挑んだ。

山本幸は昨年までU―23で3連覇し、シニア・エリートは初参戦。スタートで山本和と共に飛び出すと、1キロ過ぎには早くも先頭に立った。2位以下の順位が入れ替わるのを見目にトップを独走、全日本チャンピオンの座についた。3分41秒差の2位に、チームメートの辻浦圭一（28）が入った。

山本和は、スタート直後のトップから3番手に位置を固め、さらに上位をうかがったが、残り2周でじわじわと差を詰めた後続の選手にかわされ4位に後退。最後まで食らいついたが、表彰台には23秒及ばなかった。（岩谷真宏）

優勝でき良かった

山本幸平　いつも厳しいレースをしているので、体が勝手に反応して前に出ていた。代表が決まって忙しく、調子はあまり良くはなかったし、レースも3周目までまったく集中できていなかった。内容的には駄目だけれども、優勝できたことは良かった。

表彰台届かず悔しい

山本和弘　全日本で弟（幸平）とワン・ツーできれば最高と思っていたし、オリンピックへ勢いを付けてあげようと頑張ったが、暑さで3周目に一気に止まってしまった。

【クロスカントリー男子エリート】2時間2分47秒で4位となった山本和弘（大賀静子カメラマン撮影）

最低でも表彰台をと考えていたので悔しい。弟には、五輪で全力を出し切ってほしい。自分も応援に現地に入るので、走りを見届けたい。

ひたすら前へ！

―幕別相撲道場　矢後太規選手

放送予定　23日（水）―27日（日）

19日に行われた全十勝小中学生相撲選手権大会。相撲道場に通う選手や初めてまわしをつける選手など、53人が集結し熱戦を繰り広げました。優勝候補の矢後太規選手＝写真＝は6日に行われた全道大会で見事優勝。今大会でも、自慢の体格を生かした押し相撲で頂点を目指し戦いに挑みました。そのほか、帯農出身で北京五輪を決めたマウンテンバイク、山本幸平選手の話題も。（長瀬雄太）

白樺、甲子園へあと2勝

五回に試合の流れを引き寄せる本塁打を放つなどチームの勝利に大きく貢献した羽馬義則

夏の高校野球　北北海道大会

【旭川】21日に旭川スタルヒン球場で行われた2回戦で白樺学園は6―2と武修館を下して6年連続のベスト4に進出、2年ぶりの甲子園まであと2勝と迫った。23日午後から予定される準決勝は昨年と同カードとなり、リベンジを懸けて強豪の旭川実と対戦することに。武修館戦では1番の羽馬義則（3年）が本塁打を含む3安打で3点に絡む活躍。2番手投手の田甫優太（2年）が10三振を奪い、8回を1失点と粘りの投球を見せた。同日第2試合は旭川実が延長十三回の熱戦の末に1―0で北見工に勝利した。休養日の22日、白樺学園ナインは午前、旭川北都商グラウンドで練習した。（古川雄介、金野和彦）

二回途中からのロングリリーフで武修館打線を抑えこんだ白樺学園の田甫優太投手

次戦「コールドで勝つ」

1号弾の羽馬

快音とともに左中間へ高々と上がった打球は大会第1号となるスタンドイン。北北海道大会から1番に入った羽馬義則の一発が1点を争う接戦ムードから一気に流れを引き寄せた。今大会では選手たち自身が試合前日に話し合って打順を決めており、〝1番羽馬〟はナインの総意。「先頭打者は切り込み隊長。（本塁打は）手応えがあった」と期待に応えて安どの笑顔がこぼれた。

支部大会からの打撃不振を打開するため「まじめな性格の選手が多いので、委縮せずにもっと伸び伸びとプレーしてもらいたい」（戸出直樹監督）と打順をすべて選手に任せる荒療治に踏み切った。寮長も務める羽馬は人一倍周りに気を使う性格。それが思い切ったプレーを妨げることもあったが、本人も一番しっくりする打順に皆から推されて座り、持ち前のフルスイングが戻った。

2年前の甲子園で1年生の羽馬はボールボーイを務めていた。大舞台でプレーする先輩たちの姿を見て、今度は自分の活躍でこの地を踏もうと誓った。捕手としても打線の中でもチームの要に成長し、あの舞台にたどり着くまであと2勝。準決勝の相手は昨年と同じ旭川実、コールド負けの屈辱は忘れていない。先取点、追加点を取ってコールドで勝ちたい」とリベンジに闘志を燃やした。

緩急自在に10奪三振

○…二回から救援した2番手・田甫優太がスライダー、シンカー、最速133キロの直球を織り交ぜた緩急自在の好投で10三振を奪い、反撃を1点に抑えて勝利に貢献。早い回でのスクランブル登板で好投したが「崩れたらすぐ行くつもりだった。制球が反省点だが抑えられたので50点くらい」と自己採点は控えめに笑顔を見せた。

今春の関東遠征で日大三、拓大紅陵など強豪校相手に投げ要所を抑えたことが「自信になっている」と明かす。大内康至部長も「走者を出しても落ち着いたマウンドさばきができる」と信頼を置く。8安打は許したが、降板後も伝令で駆け寄った宮浦泰史、遊撃の中田祐太らの励ましを受けて粘りの投球だった。

◇2回戦（21日）

白樺学園	102012000	6
武修館	101000000	2

白樺学園

	打数	安打	打点	三振	四死球	①投手	②捕手	③一塁	④二塁	⑤三塁	⑥遊撃	⑦左翼	⑧中翼	⑨右翼
②羽馬	5	3	1	0	0	中安	左二	左本	遊ゴ	中飛				
⑤安田	4	0	0	0	0	遊ゴ	一邪	一邪	三飛					
⑧丸尾	4	1	3	0	0	一ゴ	中安	右飛	一飛					
③杉本	3	1	0	0	1	右二	遊ゴ	四球	左飛					
⑨宮崎	4	0	0	1	0	中飛	三ゴ	三振	一飛					
⑦川田	3	0	0	0	1	二ゴ	右飛	四球	二ゴ					
⑥中田	3	1	0	0	1	四球	二飛	一飛	左二					
①宮浦	1	0	0	0	0	二ゴ								
1田甫	2	1	1	0	0	中飛	二安	三犠						
④椎名	4	0	0	0	0	遊失	遊ゴ	遊飛	中飛					
犠併残盗失														
1 0 4 3 0		3 3 7 5 1 3												

武修館

	打数	安打	打点	三振	四死球	①投手	②捕手	③一塁	④二塁	⑤三塁	⑥遊撃	⑦左翼	⑧中翼	⑨右翼
⑧太田	4	1	0	0	1	死球	二飛	二ゴ	二飛	中安				
④加我	4	0	0	2	0	捕犠	中飛	左飛	三振	三振				
②荒川	3	0	1	2	1	中犠	三振	中飛	死球	三振				
⑨1大久保	5	4	0	0	0	中安	中安	中安	二ゴ	中安				
⑥川越	3	1	0	0	1	二ゴ	一犠	四球	右安	投ゴ				
⑦9佐藤	4	2	1	2	0		中二	中二	三振	三振				
③荒木	3	0	0	0	1		死球	一邪	遊邪	遊ゴ				
①上田	1	1	0	0	0		投安							
7曽根	3	0	0	2	0			二飛	三振	三振				
⑤河合	4	1	0	2	0			三振	二ゴ	右安	三振			
犠併残盗失														
3 0 1 2 0 3		3 4 1 0 2 1 0 4												

	回数	打者	球数	安打	三振	四死球	自責
宮浦	1⅔	7	20	2	0	2	1
田甫	8	34	118	8	10	2	1
上田	2⅔	10	37	3	0	1	2
大久保	7	27	87	4	1	2	1

▽本塁打＝羽馬（白）▽二塁打＝杉本、羽馬、中田（白）、佐藤2（武）▽盗塁＝杉本2、川田（白）▽盗塁死＝中田（白）▽暴投＝宮浦（白）、上田（武）▽失策＝加我、荒川、川越（武）▽審判＝南、藤崎、高橋、本田▽試合開始＝10時28分▽試合時間＝2時間18分

連盟旗野球

（22日）

帯大谷 0 ― 旭川工 7（11、1）
釧路工 2 ― 稚内大谷 9（2、1）
23㈫ 10:30
北見北斗 3 ― 駒大岩見沢 4（3、6）
釧路商 0 ― 北見柏陽 2（0、1）
24㈬ 13:00
白樺学園 3 ― 帯工 2（3、6）
武修館 4 ― 滝川西 3（4、2）
23㈫ 13:00
名寄光凌 4 ― 旭川実 6（4、1）
北見工 2 ― 旭川竜谷 1（2、0）

◇準々決勝
☆十勝川A球場
REAL CLUB　0 2 0 4 0 0 / 0 1 4 0 4 0 0　6 6
フクハラA（六回時間切れ。フクハラAの抽選勝ち）
【R】岩井、加藤―奥村
【フ】佐藤、岩上―青山
▽三塁打＝赤坂（フ）
▽二塁打＝本間、佐々木（フ）
▽審判＝加藤善、角田、豊田
☆十勝川B球場
中札内野球クラブ　0 4 0 0 2 0 / 3 1 0 0 0 0　4 6
GS（22日）
【中】山本―河瀬（五回時間切れ）
【G】桜井信、三好優―桜井智、澤
▽本塁打＝桜井智（G）
▽二塁打＝三好仁、桜井信（G）阿部（中）
▽審判＝大沼、清水慶、武藤
☆十勝川C球場
ファミリー寿司まんぼう　0 0 2 1 0 / 0 1 0 0 1　2 3
年中野球（五回時間切れ）
【フ】新岡―庄司智
【年】前野―鈴木
▽二塁打＝北村（フ）寺沢（年）
▽審判＝和田、伊藤紀、岸田
☆十勝川D球場
B・T・S　0 0 0 0 0 1 / 2 0 0 1 1 X　4 1
栗田会計（六回時間切れ）
【B】宗宮、佐々木―鈴木嗣
【栗】山地―保苅
▽三塁打＝川原（栗）
▽審判＝高松、高井、相原
◇2回戦（21日）
北見工　0 0 0 0 0 0 0 0 0 / 0 0 0 0 0 0 0 0 0　0
旭川実　0 0 0 0 0 0 0 0 0 / 0 0 0 0 0 0 1 x 0　1
（延長十三回）

十勝の高校野球

◇2回戦（21日）
八23日の試合▽（午前5時試合開始）
◇準決勝
▽十勝川B―ファミリー寿司まんぼう―栗田会計
▽十勝川C―フクハラA―中札内野球クラブ

かちまいスポーツ
記録の速報は▼kachimai.mobi
写真がほしい▼TEL0120-25-9410
Eメール▼sports@kachimai.co.jp
ファクス▼0155-25-2700